

研究課題名	看護記録にみるHCU病棟看護師の重症患者に対するアセスメントに必要な能力の変化
研究機関名	武蔵野赤十字病院 HCU病棟
研究責任者	所属 HCU病棟 氏名 高橋 かえで
研究期間	(西暦) 2021 年 7月 ~ 2021 年 12 月
研究の意義・目的	<p>・意義 2020年2月よりHCU病棟では重症COVID-19・COVID-19疑似症患者の受け入れを行ってきた。そのためHCUではICU病棟で管理していた重症な人工呼吸器装着患者もHCU病棟で管理する機会が増えた。重症COVID-19の受け入れいれていることでよりクリティカルな患者の管理を担うこととなったHCU病棟において、重症患者を安全に管理するための看護師の知識や能力の向上が求められている。 COVID-19患者を受け入れ開始後1年が経過し、日々業務を行う中でCOVID-19患者を受け入れ前と現在とでは看護師の発言内容や記録内容に変化を感じている。その変化の内容を明らかにすることは、HCU病棟の看護の質の向上をさせるために重要と考えた。 そこで看護記録の内容を分析し、看護の質を捉えることが可能と考えた。 そこで今回は、HCU病棟の看護記録から変化の内容を明らかにし、HCU病棟看護師の重症患者に対するアセスメントに必要な能力を向上させるための示唆が得られると考える。</p> <p>・目的 HCU病棟の看護記録の内容の変化を明らかにすることで、看護師のアセスメントの向上に必要な示唆を得る。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	<p>・研究デザイン：後ろ向き研究 テキストマイニングKHCoder3を使用し、看護記録の文字（量的データ）から量的分析を行う テキストマイニングとは：テキストデータを様々な計量的方法によって分析し、形式化されていない膨大なテキストデータの中から言葉（キーワード）どうしにみられるパターンや規則性を見つけ、役に立ちそうな知識・情報を取り出そうとする手法・技術である。</p> <p>・データ収集期間 1) COVID-19流行第1波の2020年3月から4月にHCU病棟に入院したCOVID-19（疑似症含む）の人工呼吸器装着中患者の看護記録 2) COVID-19流行第3波の2020年12月から2021年3月にHCU病棟に入院したCOVID-19（疑似症含む）の人工呼吸器装着中患者の看護記録</p> <p>・データ収集期間 2021年7月から10月</p>
①試料・情報の利用目的及び利用方法（匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む） ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	<p>①看護研究の意義・目的（上記）達成のために、看護記録を用いる。看護記録の内容を分析し、考察した内容を武蔵野赤十字病院看護研究発表に用いる。</p> <p>②患者ID、年齢、人工呼吸器装着期間、人工呼吸器装着中の看護記録、記録者</p> <p>③2020年3月から4月、2020年12月から2021年3月までHCUに入院したCOVID-19（疑似症含む）人工呼吸器を使用していた患者の看護記録</p> <p>④HCU病棟 看護師長 宮本 加奈子</p>

問合せ先

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1
武蔵野赤十字病院

所属 HCU病棟

氏名 師長：宮本 加奈子

TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525